

第四次西東京市地域福祉活動計画 パブリックコメント（市民意見提出制度）結果一覧

No.	検討箇所		意見概要	検討結果
	頁・行	施策名		
1		全体	全体的に、支援する側の目線の表記が多く、「誰」を対象として策定した計画なのかと思う。	第四次西東京市地域福祉活動計画（以下「当計画」という。）は、「一人ひとりの個性をいかし、ともに支え合い、みんなでつくる私たちのまち」という基本理念のもとで、市民の皆さまが主役となって地域づくりを進めていく活動計画になっています。 社会福祉協議会では、様々な事業を通じて、そうした取り組みを支援してまいります。
2		全体	課題に対して、これまでの評価（できたこと、できなかったことの原因）が付されておらず、いきなり「課題」から「施策」に飛んでいるような印象を受けた。（「これはできたから、今後はこのように取り組む」等の表記が抜けている） 結果、せっかくの作り上げたものが、わかっている人だけでやっているというようにとらえられ、もったいない。	第3章では、当計画の前計画である「第三次西東京市地域福祉活動計画」にて、市民の皆さまとともに取り組んできた地域活動に対する、成果と課題を記載しています。 当計画については、今まで以上に社会福祉協議会が取り組むべき事項について記載しておりますので、それを具現化するために、5年間のアクションプランを別途策定し、さらに年度ごとの各事業計画へ反映させていく予定です。 具体的な取り組み内容や目標数値を定めて、今後取り組んでまいります。
3		全体	社協の取り組みを載せたアクションプランの記載は興味深く、特に新規取り組みについては、どのように展開していくのか楽しみである。	
4	P1 P27	計画の概要 施策の展開	SDGs カタカナで、読み方の表記をしたほうがよい。	ご指摘のとおり、SDGsは本会にとっても新しい取り組みであり、皆さまにも是非ともおぼえていただきたいワードとなります。 第1章「計画の概要」及び第8章「施策の展開」の説明ページの最初の表記にカタカナ表記を追加します。
5	P31	基本目標1 施策②参加しやすい居場所づくり	「内容」のところ、「寄り添い支援」をします、とある。寄り添い支援そのものが一様に理解されない中で、「」づけになっていることで、そのような事業があるかのようにとらえられる。	地域共生社会の実現に向けて、住民とともに地域をつくり、人々の多様なニーズを把握し、課題を抱える本人に寄り添って支援をしていく観点が重要と考えます。 「寄り添い支援」は事業の名称ではありませんが、計画を進める上でのキーワードの一つになるものと考えており、内容を強調するために「」表記をしています。

第四次西東京市地域福祉活動計画 パブリックコメント（市民意見提出制度）結果一覧

No.	検討箇所		意見概要	検討結果
	頁・行	施策名		
6	P35	基本目標4 アクションプラン6.	閉じこもりの発見 「閉じこもり」の表記は、世間一般の共有理解の言葉なのであろうか。当事者がこれを見たら、これから閉じこもったままでいようと思うであろう。	厚生労働省では、「閉じこもり予防・支援マニュアル」において、「閉じこもり症候群とは生活の活動空間がほぼ家の中のみへと狭小化することで活動性が低下し、その結果、廃用症候群を発生させ、さらに心身両面の活動力を失っていく結果、寝たきりに進行するという考え方」と示しています。 本会が実施する「はつらつサロン」（介護予防事業）においても、様々な議論を重ねた結果「閉じこもりがちの方」と表記しています。
7	P37	基本目標5 施策①情報提供体制と内容の充実	「内容」のところで、「広報戦略」という表記があるが、戦略という表記は良くない。 (アクションプランにおいても同様)	「戦略」という表記については、文字通りの軍事的な意味の他に、現代では、組織などを運営していくための将来を見通した方策の意味も辞書には記載されています。 まさに本会が将来を見据えて、いかにして市民の皆さまに、当計画やアクションプランをお示しできるのかがポイントとなりますので、当表記を使用し、情報収集や発信に積極的に取り組んでまいります。
8	P33	基本目標3 「いろいろな分野との連携」	西東京市には、公的機関（市、警察、消防）、準公的機関（公益法人、財団、社団等）地域団体（町内会、団地グループ、老人会、自治会）、ボランティアグループに大別されているものの、似たような活動を行っているにもかかわらず”たて割”であり、横ぐしである横の連携が希薄状態です。 このすべての組織、団体の活動の実態を把握して頂き、活動内容、活動エリア等共有できる組織団体等とのマッチングを行ってほしいです。 特に、公的機関以外の団体、グループは高齢化で活動家も減少傾向ゆえ各団体との協力体制をつくるのが効率化にもなり、また若い人達にも関心を高める機会にもなると思います。その為にも地域に根差したふれまちはますます重要になると思います。	「西東京市スタイル」を推進していくためには、様々な機関や団体、活動者の方々と連携していかなければなりません。 また、市の第4期西東京市地域福祉計画においても「中間のまとめ」の基本目標2 みんながつながりあう地域づくり「(3)地域における連携体制づくり」において、地域福祉を市全体で推進していくために、ボランティア団体・NPOや事業者等の組織の連携や、関係機関、各種ネットワークなど、地域における連携体制を強化します。」と記載されています。 当計画と西東京市地域福祉計画は密接に連携し、推進していく予定ですので、市の担当課と情報共有を図り、連携、調整しながら積極的に取り組んでまいります。

第四次西東京市地域福祉活動計画 パブリックコメント（市民意見提出制度）結果一覧

No.	検討箇所		意見概要	検討結果
	頁・行	施策名		
9	P21 P30 P32	2 「西東京市スタイル」 ふれまち 4 施策の展開 基本目標1 地域コミュニ ティへの参加 基本目標2 地域人材の育成 地域での活動	<p>西東京市が指定した「下保谷四丁目特別緑地安全地区」の公開が非公式だが始まり、活発に活動している。その中心になっているのが保谷第一小通域のふれあい広場のメンバーだ。</p> <p>今後展開される活動については、一般市民を対象とした催し物や各種団体個々の活動が考えられる。自然豊かな場所で自然を感じながらボランティアなど幅広い利用や活動が考えられ、市民のコミュニティの地として期待がもたれる。</p> <p>また施設内の建物「母屋」はコミュニティの場所としても利用に適している。折角の施設は交通の便もよく地域福祉の拠点として安定した利用ができる。</p> <p>現在市では緑化審議会での活用方向性を検討中だが、その結果を踏まえながらぜひとも今計画に視野をおいて検討していただきたい。</p>	<p>人々が集うことのできる「居場所」は、とても貴重です。これまでふれあい広場の皆さまは「下保谷四丁目特別緑地安全地区」において、地域の住民の皆さまとともに様々な取り組みを企画、実施されてきました。</p> <p>こうした一つ一つの取り組みが地域につながるきっかけとなり、新しい活動者を増やす一助となるものと考えております。</p> <p>当計画を具現化するための取り組みを企画する際の、一つの候補地として検討します。</p>
10		全体	<p>SDGsまでも盛り込んだ計画は素晴らしいと思いました。</p> <p>ただ、社協の中核となる取り組みとしてはやはり高齢者先行を感じます。西東京市が高齢社会であることから当然かもしれません。</p> <p>そして、子ども、障害者、生活困窮者等も列挙されていますが、もう少し広い括り（生きづらさを抱えていてもなかなか訴えることのできない人、制度ではみ出す人）を計画にわかりやすく入れ込んでいただくと共生社会の実現がより明確化するのではと思いました。</p>	<p>基本目標3「地域の課題解決力強化」において、複雑化・多様化している地域課題の解決に向けた施策として、市内関係機関・団体との連携強化と「西東京市スタイル」を基盤にした、地域課題解決のための取り組みの創出について記載しています。</p> <p>西東京市スタイルでは、本会が実施する4事業の密接な連携と他機関、団体の皆さまとの協働により、地域でお困りごとを抱えている方を支援していくことを目標としており、その仕組みづくりについては、アクションプランに添って取り組んでまいります。</p>
11	P18	第4章 西東京市における福祉課題のまとめ 7. 生活環境の向上	<p>いわゆる買い物難民その予備軍に対する何らかの対策が必要と思います。福祉有償運送は利用者、提供事業所とも縛りが多く、活用しにくいです。事業者側としては、運営の継続はかなりきついものがあります。</p> <p>違った形態での移動困難者対策の考察が必要な時期かと思います。</p>	<p>地区懇談会やアンケート調査の結果から、買い物に不都合を感じている方々の声をお聞きし、当計画第4章「西東京市における福祉課題のまとめ」の「7 生活環境の向上」に記載しています。</p> <p>この課題については、市の第4期西東京市地域福祉計画にも施策の一つとして取り上げられており、互いに連携して取り組んでまいります。</p>

第四次西東京市地域福祉活動計画 パブリックコメント（市民意見提出制度）結果一覧

No.	検討箇所		意見概要	検討結果
	頁・行	施策名		
12	P19	第4章 西東京市における福祉課題のまとめ 9. 情報提供体制の充実	地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーター、ほっとネット推進員など素晴らしい取り組みをされているのに、認知度が低いのがとても残念です。名称が抽象的すぎて役割が理解しづらいかとも思います。	各事業は、市の計画（地域福祉コーディネーター事業は「地域福祉計画」、生活支援コーディネーター事業は「高齢者保健福祉計画 介護保険事業計画」）に基づいて実施されています。 ご指摘のとおり、挙げられた事業の認知度については、市が実施したアンケート調査においても大変低いということがわかりました。 この件については、基本目標5「情報提供体制の充実」にもとづき、各事業の役割を明確にお伝えできるよう、積極的にPR活動に取り組んでまいります。
13	P15 P16 P30 P31	第4章 西東京市における福祉課題のまとめ 1. 地域におけるつながりづくり 3. 安全・安心のための地域づくり 基本目標1 施策①地域がつながるきっかけづくり 施策③災害時ネットワークの充実	西東京市と連携し、西東京市において自治会のあるところ、自治会のないところを把握し、自治会のないところへは災害時ネットワークを近所の住民でつくり、住んでいる場所での災害時の対応の仕方について具体的に消防の方やコーディネーターの方のお話を聞く機会をつくる等防災の取り組みができればと思う。 アウトリーチして住民の方に働きかける（待ちの姿勢の方が多いため）地域住民が災害時にお互いの無事を確認したり、トイレの場所や避難物資供給のこと等、自治会をつくらなくてもできるように社協が働きかけていただきたい。このような取組をすると社協の会員も増えていくのではないだろうか。	懇談会やアンケート調査を実施したことで、多くの方々から「災害に対する不安」についての声をお聞きすることができました。 本会としましても、災害に備えて地域のつながりの構築や、災害時のネットワーク強化の取り組みは急務であると考えています。 基本目標1「地域コミュニティへの参加促進」における災害時ネットワークの充実を図るとともに、基本目標3「地域の課題解決力強化」における多職種との連携による災害時対応、基本目標5「情報提供体制の充実」における災害時に備えるための情報提供体制の充実等の具現化に取り組んでまいります。